

開田高原における伝統的草地とその周辺の植物相

柳澤衿哉^{1,2}・浦山佳恵¹

1 はじめに

木曾町開田高原は近世以降の木曾馬の主産地で、古来、馬のための採草地や放牧地が広く確保されていた¹⁾。農家にとって馬は現金収入源であるとともに、田畑での農業生産を維持する厩肥を得る上でも重要であった。1955年頃も依然として約600頭の馬が飼育され、約5000haの草地があった²⁾。馬には夏は生草、冬は干草が与えられ、それぞれ生草場、干草山と呼ばれた草地から採取されていた。干草山は隔年採草で、採草年にあたる草地では春先に火入れ、9月以降草刈りが行われた。

戦後開田高原での主要な家畜が馬から牛に変化し、2015年現在統計上の草地面積は5.2haである(農林業センサス集落カードによる)。木曾馬は町の保存施設で40頭程が飼養され、火入れは景観保全を目的に全集落で続けられている。そうしたなか、2018年まで1戸の牛農家が0.5haの草地で伝統的な干草利用を続けてきた。この草地は2006年までに絶滅危惧種のチャマダラセセリの県内唯一の生息地となり、その他にも希少な昆虫や植物が数種確認されたことから、2015年に県は当草地周辺を希少野生動植物保護条例に基づく生息地等保護区に指定した(平成27年長野県告示第392号)。

2016年、開田高原において近世以降隔年での春先の火入れと9月以降の草刈りによる管理が続けられてきた伝統的草地は他の管理方法(毎年火入れ、毎年草刈り、毎年火入れと草刈り、利用放棄)による草地と比較し植物の種多様性が高いこと³⁾、伝統的草地におけるチャマダラセセリの生息は隔年での火入れと採草による管理と密接に関わっていたこと⁴⁾が明らかとなった。そのため農家が採草を中止した2015年以降も、生息地等保護区では、隔年での4月下旬の火入れと9月以降の採草による伝統的管理が町によって続けられている。

長野県では1960年頃まで開田高原以外の農村でも多くの牛馬が飼育されており採草地も多かったが、役畜の減少によって近年までにほとんどが消失し^{5),6)}、

開田高原に残る伝統的草地は極めて貴重な存在であると考えられる。しかし、この草地の植物相についてはこれまで十分な調査はなされていない。そこで、開田高原に残る伝統的草地を保全する基礎資料とするため、伝統的草地を含む「生息地等保護区」の植物相を調査したので報告する。

2 調査方法

2.1 調査地域

木曾町開田高原は、長野県の南西部、御嶽山の東北麓に位置する。調査地域は木曾川支流の末川沿いの標高1070～1110mの南向き斜面で、面積は2.07haである(図1, 図2)。伝統的草地(図1の★)の他は水田、畦草地、草地、山林といった植生景観から構成される。調査地の北部は山林、東南部は道路に囲まれ、道路の東部は山林、南部は末川との間に水田、畦草地、草地、河畔林がみられる。調査地北端には森林鉄道の軌道跡が残っており、幅2m程度の丈の低い草地となっている。

2.2 植物相調査

2022年5月18日、6月15日、7月14日、8月15日、9月15日に、調査地全域を対象に踏査による植物相調査を行った。

調査では、伝統的草地を斜面と平坦面に分け(図2)、それぞれで確認された全植物を記録した。斜面と平坦面に分けたのは、両方で構成する植物の種類に違いがあると考えられたためである。伝統的草地以外の場所では、伝統的草地で確認されなかった植物のみを記録した。

各種について長野県指定希少野生動植物、絶滅危惧種、外来種の判定をした。長野県指定希少野生動植物は、長野県が希少野生動植物のうち規制の必要な80種を指定し、保護を図っているものである⁷⁾。絶滅危惧種は、環境省及び長野県のレッドリストに掲載されているもの^{8),9)}、10都道府県以上のレッドリストに掲載されているもの(他県RDB種)のう

1 長野県環境保全研究所 自然環境部 〒381-0075 長野市北郷 2054-120

2 現：退職

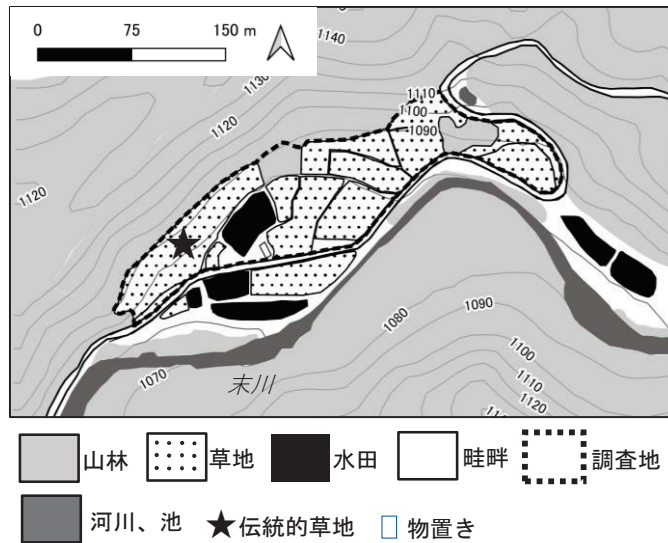


図1 調査地の概況



図2 調査地の外観

ち長野県指定希少野生動植物を除いたものとし、各種のレッドリスト掲載状況は環境省 HP「いきものログ」の絶滅危惧種検索システム¹⁰⁾で確認した。同検索システムのうち環境省絶滅危惧種検索は第4次レッドリストと2015～2019年までの見直しに対応しており、都道府県絶滅危惧種検索は2020年度に更新されたものである。

種名・学名は米倉浩司・梶田忠「BG Plants 和名-学名インデックス」(YList)に準拠し、外来種(帰化植物、栽培植物)の判定にも同リストを用いた。外来種は、長野県の生態系被害防止外来種リスト^{11),12)}を用いて、生態系被害防止外来種リスト(総合対策外来種、産業管理外来種等)、特定外来生物の指定状況についても示した。

なお、本稿では長野県指定希少野生動植物、絶滅危惧種を合わせたものを「希少種」という。

3 結果

調査地では408種の植物が確認され、そのうち県指定希少野生動植物は2種、絶滅危惧種は36種、外来種は37種であった(表1)。

伝統的草地では211種の植物が確認され、そのうち県指定希少野生動植物は1種、絶滅危惧種は24種、外来種は21種であった。絶滅危惧種はオオナンバンギセル、ユウスゲ、キキョウ、ノダイオウ等であった(表2)。外来種のうち6種(セイヨウタンポポ、ハルガヤ、エゾノギシギシ、ヒメジョオン、カモガヤ、オニウシノケグサ)は生態系被害防止外来種であった(表3)。

伝統的草地の斜面と平坦面を比較すると、斜面では184種、平坦面では104種が確認された(附表)。絶滅危惧種は斜面では21種、平坦面では12種が確認され、斜面と平坦面の両方で確認されたものは9種(キキョウ、ユウスゲ等)、斜面のみで確認されたものは12種(ノダイオウ、ウナギツカミ等)、平坦面のみで確認されたものは4種(オオナンバンギセル、ノコギリソウ等)であった(表2)。外来種は斜面では19種、平坦面では7種が確認され、斜面と平坦面の両方で確認されたものは5種(セイヨウタンポポ、ヒメジョオン等)、斜面でのみ確認されたものは14種(エゾノギシギシ、カモガヤ等)、平坦面でのみ確認されたものは2種(ケナシハルガヤ、ヘラバヒメジョオン)であった(表3)。

伝統的草地以外でのみ確認されたのは197種で、

表1 植物の確認状況

生息地	確認植物数	長野県指定希少野生動植物	絶滅危惧種 ^{*1}			外来種	
			合計	環境省	長野県		他県RDB種 ^{*2}
I 伝統的草地	211	1	24	2	5	23	21
II 伝統的草地以外のみ	197	1	12	0	2	10	16
合計	408	2	36	2	7	33	37

*1:長野県指定希少野生動植物は除いた。

*2:「いきものログ」都道府県絶滅危惧種検索で10都道府県以上のRDBに掲載されていた種の数。

表2 確認された絶滅危惧種^{*1}

確認場所 ^{*2}	絶滅危惧種名	科名	カテゴリー ^{*3}			伝統的草地	
			環境省	長野県	他県RDB種 ^{*4}	斜面	平坦面
I	ノハナショウブ	アヤメ科			●	●	
I	アヤメ	アヤメ科			●	●	●
I	ユウスゲ	ワスレグサ科		NT	●	●	●
I	ビロードスゲ	カヤツリグサ科			●	●	●
I	ハネガヤ	イネ科			●	●	●
I	ヤマオダマキ	キンボウゲ科			●	●	
I	ベンケイソウ	ベンケイソウ科			●	●	
I	ミツモトソウ	バラ科			●	●	
I	クロツバラ	クロウメモドキ科			●	●	
I	ウメバチソウ	ニシキギ科			●	●	●
I	エゾノタチツボスミレ	スミレ科			●	●	
I	イヌナズナ	アブラナ科			●	●	
I	ウナギツカミ	タデ科		DD	●	●	●
I	ノダイオウ	タデ科	VU	N	●	●	
I	オオヤマフスマ	ナデシコ科			●	●	●
I	レンゲツツジ	ツツジ科			●	●	
I	ヒメナミキ	シソ科			●	●	
I	オオナンバンギセル	ハマウツボ科		EN	●	●	●
I	シオガマギク	ハマウツボ科			●	●	
I	キキョウ	キキョウ科	VU	NT	●	●	●
I	ノコギリソウ	キク科			●	●	●
I	オミナエシ	スイカズラ科			●	●	●
I	マツムシソウ	スイカズラ科			●	●	●
I	ヤマゼリ	セリ科			●	●	

II	ナツノハナワラビ	ハナヤスリ科			●	●	
II	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ科			●	●	
II	オウレンシダ	コバノイシカグマ科			●	●	
II	イワデンダ	イワデンダ科			●	●	
II	ウスバサイシン	ウマノスズクサ科			●	●	
II	ヒメヒラテンツキ	カヤツリグサ科		NT	●	●	
II	ヒロハノドジョウツナギ	イネ科			●	●	
II	ミヤマザクラ	バラ科			●	●	
II	クサボケ	バラ科			●	●	
II	トモエソウ	オトギリソウ科			●	●	
II	オケラ	キク科			●	●	
II	オニヒョウタンボク	スイカズラ科		NT	●	●	

*1:長野県指定希少野生動植物はリストから除いた。

*2: I は伝統的草地で確認されたもの、II は伝統的草地以外のみで確認されたものを示す。I の植物は伝統的草地以外で確認されなかったわけではない。

*3:絶滅危惧 I A類 (CR) は「ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの」、絶滅危惧 I B類 (EN) は「IA類ほどではないが近い将来における野生での絶滅が極めて高いもの」、絶滅危惧 II 類 (VU) は「絶滅の危険が増大している種」、準絶滅危惧種 (NT) は「現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』に移行する可能性のある種」、情報不足 (DD) は「評価するだけの情報が不足している種」を示す。長野県の留意種 (N) : 「県内でレッドリストのカテゴリーまたは絶滅のおそれのある地域個体群に該当しない種で国のレッドリストに記載されている種」を示す。

*4:「いきものログ」都道府県絶滅危惧種検索で10都道府県以上のRDBに掲載されていた種。

そのうち長野県指定希少野生動植物は1種、絶滅危惧種は12種で、外来種は16種であった(表1)。絶滅危惧種はヒメヒラテンツキ、オニヒョウタンボク等であった。外来種のうち6種(イタチハギ、ヒメスイバ、アメリカセンダングサ、コヌカグサ、クロコヌカグサ、オオアワガエリ)は生態系被害防止外来種であった。

4 考察

これまで伝統的草地では、2012~2013年に植生調査が行われ、14種の希少種を含む97種の植物が確認されていた(内田,未発表)。今回の調査では、調査範囲・頻度の違いもあるが、その2倍以上の種が確認され、新たに11種の絶滅危惧種も発見された。さ

表3 確認された外来種

確認場所*1	種名	科名	カテゴリー区分*2	伝統的草地	
				斜面	平坦面
I	クサイ	イグサ科		●	
I	ケナシハルガヤ	イネ科			●
I	ハルガヤ	イネ科	総合対策(その他)	●	●
I	カモガヤ	イネ科	産業管理	●	
I	シラゲガヤ	イネ科		●	
I	オニウシノケグサ	イネ科	産業管理	●	
I	ナガハグサ	イネ科		●	
I	メマツヨイグサ	アカバナ科		●	●
I	ムラサキツメクサ	マメ科		●	
I	シロツメクサ	マメ科		●	
I	エゾノギシギシ	タデ科	総合対策(その他)	●	
I	シンワスレナグサ	ムラサキ科		●	
I	タチイヌノフグリ	オオバコ科		●	
I	コテングクワガタ	オオバコ科		●	
I	ヒメオドリコソウ	シソ科		●	
I	ヒメジョオン	キク科	総合対策(その他)	●	●
I	ヒメムカシヨモギ	キク科		●	
I	ハルジオン	キク科		●	●
I	ヘラバヒメジョオン	キク科		●	●
I	オオアレチノギク	キク科		●	
I	セイヨウタンポポ	キク科	総合対策(重点)	●	●

II	コヌカグサ	イネ科	産業管理		
II	クロコヌカグサ	イネ科	産業管理		
II	オオスズメノテッポウ	イネ科			
II	オオアワガエリ	イネ科	産業管理		
II	オオマツヨイグサ	アカバナ科			
II	イタチハギ	マメ科	総合対策(重点)		
II	モモ	バラ科			
II	オッタチカタバミ	カタバミ科			
II	ヒメスイバ	タデ科	総合対策(その他)		
II	アカザ	ヒユ科			
II	コンフリー	ムラサキ科			
II	オオイヌノフグリ	オオバコ科			
II	ビロードモウズイカ	ゴマノハグサ科			
II	タケトアゼナ	アゼナ科			
II	アメリカアゼナ	アゼナ科			
II	アメリカセンダングサ	キク科	総合対策(その他)		

*1: I は伝統的草地で確認されたもの、II は伝統的草地以外でのみ確認されたものを示す。I の植物は伝統的草地以外で確認されなかったわけではない。

*2: 総合対策(総合対策外来種の略)は、国内に定着が確認されている外来種のうち、生態系等への被害のおそれがあるために総合的な対策が必要な外来種。外来種被害防止行動計画における対策の優先度の考え方に基づき、総合対策外来種のうち、総合対策(緊急)は特に緊急性が高く積極的に防除を行う必要がある種、総合対策(重要)は甚大な被害が予想されるため対策の必要性が高い種、総合対策(その他)は緊急対策外来種と重要対策外来種以外の総合対策外来種のことを示す。産業管理(産業管理外来種の略)は、産業又は公益的に重要で利用されているが代替性がないため適切な管理が必要な外来種のことを示す。

らに、伝統的草地周辺の草地や山林では、伝統的草地とは別に 13 種の希少種を含む 197 種もの植物が確認された。

伝統的草地以外の草地は、畦草地、放棄された採草地・水田・畑で、後者には毎年春先に地域住民によって景観保全のために火が入れられている。これら草地にも県指定希少野生動植物 1 種の他、絶滅危惧種が複数生育するが、火入れ草地にはヤナギ類が入り込んできており、火入れが中止されれば短期間に森林に遷移すると予想される。伝統的草地だけでなく、その周囲においても火入れや草刈り等による管理が継続されることが望まれる。

一方、希少種が多い伝統的草地でも、他の放棄農地や採草地等と同様に多くの外来種が入り込んでい

ることも今回の調査で判明した。今後の管理にあたっては、外来種の動向にも留意する必要がある。保護区脇の道路沿いではオオキンケイギク、河川沿いではオオハンゴンソウが発見されており、いずれも特定外来生物となっている。保護区内の石垣や湿地にこれらが侵入する可能性もあり、定期的に観察し発見された場合は駆除を行うことが考えられる。

伝統的草地では斜面と平坦面で、植物の種数、希少種及び外来種の構成が異なっていた。当草地の植物相をモニタリングする際には植物が見やすい斜面だけでなく、平坦面についても対象にする必要があると考える。

謝 辞

調査方法の検討にあたり、東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構の内田 圭助教には有益な御助言を頂きました。現地調査では、藤屋洞集落の田口今朝雄氏はじめ住民の皆様にご多大の世話になりました。ここに厚く御礼を申し上げます。

文 献

- 1) 市川健夫 (1961) 「高冷地の地理学」 令文社.
- 2) 浦山佳恵 (2018) 開田高原の昭和三〇年代の草地利用. 長野県民俗の会会報 41,67-80.
- 3) Yuko Nagata, Atushi Ushimaru (2016) Traditional burning and mowing practices support high grassland plant diversity by providing intermediate levels of vegetation height and soil pH. *Applied Vegetation Science*19(4),567-577.
- 4) 江田慧子・矢崎耀一・中村寛志 (2016) 開田高原におけるチャマダラセセリの生息する採草地での野焼きと裸地率の関係. *New Entomologist* 65, 95-100.
- 5) 須賀 丈 (2012) 日本列島の半自然草原 ひとが維持した氷期の遺産. 須賀 丈・岡本 透・牛丸敦史「草地と日本人 日本列島草原 1 万年の旅」築地書館, 1-98.
- 6) 浦山佳恵・須賀 丈・畑中健一郎・連 美綺 (2020) 長野県における盆花採りの衰退と野の花の生育地の消失. 長野県環境保全研究所 16, 9-22.
- 7) 長野県, 指定希少野生動植物の写真について: <https://www.pref.nagano.lg/shizenhogo/kurashi/shizen/hogo/kisyoyasei/jyorei-kisyosyusyasyn.html> (2023 年 1 月確認)
- 8) 環境省, 環境省レッドリスト 2019: <https://www.env.go.jp/content/900512780.pdf> (2023 年 1 月確認)
- 9) 長野県環境部自然保護課 (2014) 「長野県版レッドリスト～長野県の絶滅のおそれがある野生動植物～植物編」
- 10) 環境省, 生物情報収集・提供システムいきものログ: <https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb> (2023 年 1 月確認)
- 11) 堀田昌伸・須賀 丈・北野 聡・尾関雅章・大塚孝一・黒江美紗子・石田祐子・岸元良輔 (2017) 長野県における生態系被害防止外来種リスト. 長野県環境保全研究所研究報告 13, 31-40.
- 12) 石田祐子・尾関雅章・高野(竹中)宏平・大塚孝一・堀田昌伸 (2018) 長野県における生態系被害防止外来種リスト補遺 I. 長野県環境保全研究所研究報告 14, 9-42.

Flora in and around the traditional managed meadow on the Kaida Plateau, Nagano Prefecture

Eriya YANAGISAWA^{1,2}, Yoshie URAYAMA¹

1 Natural Environment Division, Nagano Environmental Conservation Research Institute, 2054-120Kitago, Nagano381-0075

2 Present address : Retirement

附表 伝統的草地周辺の植物一覧*1

No	場所 *2	科名	種名	伝統的草地		備考*3	No	場所 *2	科名	種名	伝統的草地		備考*3
				斜面	平坦面						斜面	平坦面	
1	I	ハヤシ科	エゾノフナハナリビ	●	●		62	I	イネ科	センダングサ		●	
2	I	トウモロコシ科	スキナ	●			63	I	イネ科	ミヤコザサ		●	
3	I	コハノイシカゲマ科	ワラビ	●	●		64	I	イネ科	クマザサ		●	
4	I	ヒメダ科	ヒメダ	●	●		65	I	イネ科	キンエノコ	●		
5	I	ミダ科	イヌワラビ	●			66	I	イネ科	オオアブラハスサ	●	●	
6	I	ミダ科	サトミダ	●			67	I	イネ科	カニツリガサ		●	
7	I	ミダ科	ヘビノネコサ	●			68	I	イネ科	シバ		●	
8	I	ミダ科	シメダ	●			69	I	クシ科	タケノコ	●	●	
9	I	ミダ科	ハクモウイノデ	●			70	I	アケビ科	アケビ	●		
10	I	コウヤワラビ科	クサワラビ	●			71	I	キンボウウゲ科	ヤマオダマキ			他県RDB種
11	I	コウヤワラビ科	コウヤワラビ	●			72	I	キンボウウゲ科	サラシナショウマ	●		
12	I	センリョウ科	フタリシズカ	●	●		73	I	キンボウウゲ科	コホノタツツル	●	●	
13	I	サトイモ科	キタマムシクサ	●			74	I	キンボウウゲ科	センニンソウ	●		
14	I	サトイモ科	トウモロコシクサ	●			75	I	キンボウウゲ科	ウマノアシガタ	●	●	
15	I	ヤマノイモ科	タチコロ	●	●		76	I	キンボウウゲ科	アキカマツ	●		
16	I	ヤマノイモ科	ウチワタコロ	●			77	I	ユキノシタ科	チダケシ	●	●	
17	I	サトイモ科	サルメ	●	●		78	I	ベンケイソウ科	ベンケイソウ	●		他県RDB種
18	I	サトイモ科	シオデ		●		79	I	フクロソウ科	ゲンシショウコ	●	●	
19	I	ユリ科	コホユリ	●	●		80	I	アザミ科	アザミ	●		
20	I	アザミ科	ノボリソウ	●		他県RDB種	81	I	アザミ科	マツヨイグサ	●	●	外来種
21	I	アザミ科	アザミ	●	●	他県RDB種	82	I	マメ科	ヤブマメ	●	●	
22	I	ワスレグサ科	ユウスゲ	●	●	県NT、他県RDB種	83	I	マメ科	スズビトキ	●		
23	I	ヒカクサ科	ヤマフキ	●	●		84	I	マメ科	キハキ		●	
24	I	クサキカズラ科	オオバキボウシ	●	●		85	I	マメ科	ムトハキ	●	●	
25	I	クサキカズラ科	コバキボウシ	●	●		86	I	マメ科	クサ	●		
26	I	クサキカズラ科	ナルコユリ	●	●		87	I	マメ科	クララ	●		
27	I	クサキカズラ科	アマトコロ	●	●		88	I	マメ科	ムラサキメクサ	●		外来種
28	I	クサキ科	クサキ	●			89	I	マメ科	シロツメクサ	●		外来種
29	I	イグサ科	イグサ	●			90	I	マメ科	フジ	●	●	
30	I	イグサ科	クサ	●		外来種	91	I	バラ科	キンミズヒキ		●	
31	I	イグサ科	スズメノヤリ	●	●		92	I	バラ科	オオキンミズヒキ	●		
32	I	イグサ科	ヤマスズメノヒエ	●	●		93	I	バラ科	ヤマキショウマ	●		
33	I	カヤツクサ科	アイズクサ	●	●		94	I	バラ科	ズミ	●	●	他県RDB種
34	I	カヤツクサ科	アオクサ	●			95	I	バラ科	ミツモトソウ	●		他県RDB種
35	I	カヤツクサ科	ヒロハスグサ	●	●	他県RDB種	96	I	バラ科	キンシロ	●	●	
36	I	カヤツクサ科	シバ	●	●		97	I	バラ科	ミツバウチ	●		
37	I	カヤツクサ科	アヒスグサ	●			98	I	バラ科	ノイバラ	●	●	
38	I	カヤツクサ科	ヒメクサ	●			99	I	バラ科	クマヅクサ	●	●	
39	I	カヤツクサ科	ミツバシカクイ	●			100	I	バラ科	ナリシロイコ	●	●	
40	I	カヤツクサ科	カタハ	●			101	I	クロウメモドキ科	クマヅクサ	●		
41	I	カヤツクサ科	アブラカヤ	●			102	I	クロウメモドキ科	クワバラ	●		他県RDB種
42	I	イネ科	ハネカヤ	●	●	他県RDB種	103	I	アザミ科	カタナハク	●	●	
43	I	イネ科	ヤマカボ		●		104	I	アザミ科	カタムクサ	●		
44	I	イネ科	スガ	●			105	I	クワ科	ヤマクワ	●		
45	I	イネ科	ナシハルカヤ		●	外来種	106	I	イラクサ科	アザミ	●		
46	I	イネ科	ハルカヤ	●	●	外来種	107	I	イラクサ科	アザミ	●		
47	I	イネ科	シロタシバ	●	●		108	I	ブナ科	コナラ	●		
48	I	イネ科	ヤマカモジクサ		●		109	I	カバノキ科	シラカンバ	●		
49	I	イネ科	スズメノヒエ	●			110	I	ニシキギ科	ツルメドク	●		
50	I	イネ科	キツネカヤ	●			111	I	ニシキギ科	ニシキギ	●		
51	I	イネ科	カモカヤ	●		外来種	112	I	ニシキギ科	ウマハチソウ	●	●	他県RDB種
52	I	イネ科	ヤマフ	●			113	I	ホトケリウ科	ホトケリウ	●	●	
53	I	イネ科	クサカモジ	●			114	I	ホトケリウ科	コケホトケリ	●		
54	I	イネ科	アオカモジクサ	●			115	I	ホトケリウ科	ササホトケリ	●		
55	I	イネ科	カモジクサ	●			116	I	スミ科	エゾノカマツボスミ	●		他県RDB種
56	I	イネ科	シラガカヤ	●		外来種	117	I	スミ科	スミ	●	●	
57	I	イネ科	オウゴンカヤ	●		外来種	118	I	スミ科	ツボスミ	●		
58	I	イネ科	カモカヤ	●			119	I	スミ科	シノスミ		●	
59	I	イネ科	スギ	●	●		120	I	ヤナギ科	ホウヤナギ	●		
60	I	イネ科	ミズイコツナギ	●			121	I	ヤナギ科	イソコツナギ	●	●	
61	I	イネ科	カモカヤ	●		外来種	122	I	アブラナ科	ヤマハダクサ	●	●	

附表 (続き)

No	場所 *2	科名	種名	伝統的草地		備考*3	No	場所 *2	科名	種名	伝統的草地		備考*3
				斜面	平坦面						斜面	平坦面	
123	I	アブミ科	イヌズナ	●		他県RDB種	182	I	キク科	ヒメジョオン	●	●	外来種
124	I	ウラボシ科	スズメ		●		183	I	キク科	ヒメカシヨモギ	●		外来種
125	I	ウラボシ科	ヤマウラボシ		●		184	I	キク科	ハルシメソウ	●	●	外来種
126	I	ムクロシ科	カマコキカエデ	●			185	I	キク科	ヘラハヒメジョオン			外来種
127	I	タデ科	イタドリ	●	●		186	I	キク科	オオアレチノギク			外来種
128	I	タデ科	イヌカタデ	●			187	I	キク科	ササヒコトリス	●	●	
129	I	タデ科	ウナギツカミ	●	●	県情報不足	188	I	キク科	ニガナ	●	●	
130	I	タデ科	ミゾソバ	●			189	I	キク科	シロハナニガナ	●	●	
131	I	タデ科	スイバ	●			190	I	キク科	ハナニガナ	●	●	
132	I	タデ科	ノドイサ	●		国VU、県N、他県RDB種	191	I	キク科	アキノクシ	●	●	
133	I	タデ科	エゾノギシギシ	●		外来種	192	I	キク科	フキ	●	●	
134	I	ナデシコ科	オオヤマフスマ	●	●	他県RDB掲載種	193	I	キク科	コウリノナ	●	●	
135	I	ナデシコ科	ノミツヅリ	●			194	I	キク科	アキノキノコ		●	
136	I	ナデシコ科	ミミクサ	●			195	I	キク科	オヤマノヂ		●	
137	I	ナデシコ科	カリナゲシ	●			196	I	キク科	セイヨウカシノボ	●		外来種
138	I	ナデシコ科	エゾノカリナゲシ	●	●		197	I	キク科	セイヨウカシノボ	●		
139	I	ナデシコ科	ケシクワ	●	●		198	I	キク科	アカオニヒラコ	●		
140	I	アザミ科	ウツギ	●			199	I	カマズミ科	カシノボ	●	●	
141	I	アザミ科	シロハナヤエウツギ	●			200	I	カマズミ科	ケシノボ		●	
142	I	アザミ科	バケウツギ	●			201	I	カマズミ科	ヤブデマリ	●		
143	I	ツリフネ科	ケツリフネ	●			202	I	スズメ草科	キンギョソウ	●		
144	I	ツリフネ科	ツリフネウ	●			203	I	スズメ草科	オミナエシ	●	●	他県RDB種
145	I	サクラソウ科	オトラノオ	●	●		204	I	スズメ草科	オトコエシ	●		
146	I	ハイナギ科	サワフタギ	●			205	I	スズメ草科	マツムシウ		●	他県RDB種
147	I	マダヒ科	ササノハ	●			206	I	ウコギ科	ウツ	●		
148	I	ツツジ科	レンゲツツジ	●		他県RDB種	207	I	ウコギ科	オオトメ	●	●	
149	I	アカネ科	アカネ	●	●		208	I	セリ科	シシウド	●		
150	I	リンドウ科	リンドウ	●	●		209	I	セリ科	セリ	●		
151	I	リンドウ科	アケボノソウ	●	●		210	I	セリ科	ヤマセリ	●		他県RDB種
152	I	リンドウ科	アケボノソウ	●			211	I	セリ科	ヤマシラミ	●	●	
153	I	ムササビ科	シロバナムササビ	●		外来種	212	II	ウラボシ科	クロノギシノボ			
154	I	ヒメジョオン科	ヒメジョオン	●	●		213	II	ハナヤスリ科	ナツハナヤスリ			他県RDB種
155	I	モクセイ科	イタダキ	●			214	II	ゼンマイ科	ゼンマイ			
156	I	モクセイ科	ミヤマイタダキ	●			215	II	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ			他県RDB種
157	I	オオバコ科	オオバコ	●		外来種	216	II	コバノイシカクマ科	イヌシガ			
158	I	オオバコ科	コケシガク	●		外来種	217	II	コバノイシカクマ科	オウレンシガ			他県RDB種
159	I	シソ科	クマバネ	●	●		218	II	チャセンシガク科	トラノシガ			
160	I	シソ科	ヒメトリスソウ	●		外来種	219	II	ヒメシガク科	ニッコウシガ			
161	I	シソ科	ウツクサ	●	●		220	II	ヒメシガク科	ミヅシガ			
162	I	シソ科	ヒメシガク	●		他県RDB種	221	II	シガク科	オオトリスガ			
163	I	シソ科	イヌシガ	●			222	II	シガク科	ミヤマシガ			
164	I	キク科	キク	●			223	II	イワシガク科	イワシガ			他県RDB種
165	I	ハマウツボ科	オオハシバキ		●	県EN、他県RDB種	224	II	コウヤワズレ科	イヌハシバキ			
166	I	ハマウツボ科	シバハシバキ	●		他県RDB種	225	II	オシダ科	ホソバナラシガ			
167	I	キョウ科	ツリガネシ	●	●		226	II	オシダ科	ヤマキナ			
168	I	キョウ科	ヤマキナ	●	●		227	II	オシダ科	オシダ			
169	I	キョウ科	キョウ	●	●	国VU、県NT、他県RDB種	228	II	オシダ科	ミヤマワズレ			
170	I	キク科	ヤマノキ	●	●		229	II	ウラボシ科	ノギシノボ			
171	I	キク科	ノギシノボ	●		他県RDB種	230	II	マツ科	ウラボシ			
172	I	キク科	ヨモギ	●	●		231	II	マツ科	カマツ			
173	I	キク科	オトコモギ	●	●		232	II	マツ科	アカマツ			
174	I	キク科	コナ	●	●		233	II	マツ科	マツ			
175	I	キク科	ユウガキ	●			234	II	ウラボシ科	ウスバキ			他県RDB種
176	I	キク科	ノコン	●	●		235	II	モクレン科	コブシ			
177	I	キク科	シヤク	●	●		236	II	クスノキ科	クサノハ			
178	I	キク科	タビラキ	●	●		237	II	ショウブ科	ショウブ			
179	I	キク科	アザミ	●			238	II	サトイモ科	アザミ			
180	I	キク科	ナツメ	●	●		239	II	サトイモ科	カラスビ			
181	I	キク科	ノハラ	●			240	II	サトイモ科	ウキ			

附表（続き）

No	場所 *2	科名	種名	伝統的草地		備考*3	No	場所 *2	科名	種名	伝統的草地		備考*3
				斜面	平坦面						斜面	平坦面	
241	II	モタグカ科	モタグカ				302	II	ユキノシタ科	チャルメルソウ			
242	II	サトリアハナ科	サトリアハナ				303	II	ブドウ科	ノブドウ			
243	II	サトリアハナ科	ヤマシユウ				304	II	ブドウ科	ヤマブドウ			
244	II	ユリ科	ウバユリ				305	II	アカバナ科	オヤマヨイグサ		外来種	
245	II	ラン科	ネジバナ				306	II	マメ科	イタチハギ		外来種	
246	II	ワスレグサ科	ヤブカンゾウ				307	II	マメ科	ツルマメ			
247	II	フユギ科	イモクサ				308	II	マメ科	コマツキ			
248	II	ガマ科	ガマズミ				309	II	マメ科	ヤマハギ			
249	II	カヤツリクサ科	ナルコスガ				310	II	マメ科	ツクシハギ			
250	II	カヤツリクサ科	カサガ				311	II	マメ科	シハリアトハギ			
251	II	カヤツリクサ科	イトスガ				312	II	バラ科	カスミ草			
252	II	カヤツリクサ科	ヒコクサ				313	II	バラ科	ミヤマ草		他県RDB種	
253	II	カヤツリクサ科	ヒカゲスガ				314	II	バラ科	クサノケ		他県RDB種	
254	II	カヤツリクサ科	イトオスガ				315	II	バラ科	オオタインソウ			
255	II	カヤツリクサ科	コウソウ				316	II	バラ科	コウソウ			
256	II	カヤツリクサ科	ヒメシラスガ				317	II	バラ科	ウミスズ草			
257	II	カヤツリクサ科	コジュク				318	II	バラ科	ヒメヒイコ			
258	II	カヤツリクサ科	タカネソウ				319	II	バラ科	ヒイコ			
259	II	カヤツリクサ科	ウシクサ				320	II	バラ科	モモ		栽培種	
260	II	カヤツリクサ科	クワライ				321	II	セリ科	ハルニレ			
261	II	カヤツリクサ科	ヒメヒツソウ		県NT		322	II	イラクサ科	クサコガサ			
262	II	イネ科	コスガ		外来種		323	II	イラクサ科	ミズ			
263	II	イネ科	クロコスギ		外来種		324	II	ブナ科	クリ			
264	II	イネ科	ノハラスメテッポウ				325	II	ブナ科	ミズナラ			
265	II	イネ科	スズメテッポウ				326	II	クズ科	オコギリ			
266	II	イネ科	オオスズメテッポウ		外来種		327	II	カバネキ科	イヌシ			
267	II	イネ科	ウスダケシバ				328	II	カバネキ科	ツノシバ			
268	II	イネ科	ヒメカサネ				329	II	シキリ科	イヌツル			
269	II	イネ科	メシバ				330	II	シキリ科	コマユミ			
270	II	イネ科	アキメシバ				331	II	シキリ科	ツルマキ			
271	II	イネ科	カヒクサ				332	II	シキリ科	ツバナ			
272	II	イネ科	トホシガラ				333	II	シキリ科	カントウユミ			
273	II	イネ科	ヒロハトシヨウツナギ		他県RDB種		334	II	カタバミ科	オウタカタバミ		外来種	
274	II	イネ科	チヂミ				335	II	トウダイクサ科	エノキ			
275	II	イネ科	ササガ				336	II	トウダイクサ科	トモエソウ		他県RDB種	
276	II	イネ科	ヒメシバ				337	II	スミレ科	シロバナエゾノタチツボスミレ			
277	II	イネ科	イブキスズク				338	II	スミレ科	タチツボスミレ			
278	II	イネ科	ムツクサ				339	II	スミレ科	アオイ			
279	II	イネ科	カチミ				340	II	ヤギ科	バコヤギ			
280	II	イネ科	カキ				341	II	ヤギ科	オノヤギ			
281	II	イネ科	スズメヒエ				342	II	アブラナ科	シキリ			
282	II	イネ科	クサヨシ				343	II	アブラナ科	オオタネツクバ			
283	II	イネ科	オオアザミ		外来種		344	II	アブラナ科	スサキ			
284	II	イネ科	ヨシ				345	II	ムクロジ科	オオモシ			
285	II	イネ科	ツルギ				346	II	ムクロジ科	イロハモシ			
286	II	イネ科	イコ				347	II	ムクロジ科	ウラギ			
287	II	イネ科	スズク				348	II	ミカン科	サンショウ			
288	II	イネ科	アキノエノコ				349	II	コムギ科	コムギ			
289	II	イネ科	エノコ				350	II	アオイ科	シナ			
290	II	イネ科	ムツクサ				351	II	タデ科	オオイタ			
291	II	クサ科	クサノオ				352	II	タデ科	キノ			
292	II	クサ科	ムツクサ				353	II	タデ科	ヒメ		外来種	
293	II	アケビ科	コウアケビ				354	II	ナデシコ科	ナンバシコ			
294	II	ウスラフジ科	アオツツ				355	II	ナデシコ科	ミミ			
295	II	ネボウ科	ネボウ				356	II	ナデシコ科	ウツ			
296	II	ネボウ科	ホトツツ				357	II	ヒコ科	アサ		外来種	
297	II	ネボウ科	キツネ				358	II	ミズキ科	ミズ			
298	II	ネボウ科	ヤマ				359	II	ミズキ科	ヤマ			
299	II	ユキノシタ科	アサ				360	II	アジサイ科	ヒメ			
300	II	ユキノシタ科	ネコ				361	II	アジサイ科	ノ			
301	II	ユキノシタ科	チャルメル				362	II	アジサイ科	ヤマ			

附表 (続き)

No	場所 *2	科名	種名	伝統的草地		備考*3
				斜面	平坦面	
363	II	ササ科	コナヒ			*1: 記録した植物を伝統的草地で確認されたもの、伝統的草地以外でのみ確認されたものに分けて種名、科名を記し、科名はAPG III分類体系に従い配列し、科の中では学名のアルファベット順に配列した。県指定希少野生動植物はリストから除いた。 *2: Iは伝統的草地で確認されたもの、IIはI以外でのみ確認されたものを示す。Iの植物は伝統的草地以外で確認されなかったわけではない。 *3: 「他県RDB種」は「いきものログ」都道府県絶滅危惧種検索で10都道府県以上のRDBに掲載されていた種を示す。
364	II	ツツジ科	ヤマツツジ			
365	II	アザミ科	ヤマアザミ			
366	II	アザミ科	ヨツバムグサ			
367	II	アザミ科	オククルマムグサ			
368	II	アザミ科	カラマツバ			
369	II	キョウチクトウ科	イタマ			
370	II	ムラサキ科	コンフリー		外来種	
371	II	オオバコ科	オオバコ		外来種	
372	II	オオバコ科	オオバコ		外来種	
373	II	コマノハグサ科	ビロードモリス 偽		外来種	
374	II	アゼナ科	カタアゼナ		外来種	
375	II	アゼナ科	アメリカアゼナ		外来種	
376	II	シソ科	キリンソウ			
377	II	シソ科	ムラサキアザミ			
378	II	シソ科	イヌハナ			
379	II	シソ科	ナキナクウシユ			
380	II	シソ科	カキトウシ			
381	II	シソ科	ハッカ			
382	II	シソ科	ヒメジソ			
383	II	ハドクソウ科	ミドリハドクソウ			
384	II	ハドクソウ科	ハドクソウ			
385	II	ハナカサネ科	ハナカサネ			
386	II	モリノキ科	ハイノキ			
387	II	キョウキ科	ホタルアザミ			
388	II	キョウキ科	ツルニンジソ			
389	II	キョウキ科	クニギキョウ			
390	II	キク科	オクラ		他県RDB種	
391	II	キク科	アメリカセンダングサ		外来種	
392	II	キク科	トキンソウ			
393	II	キク科	アズマアザミ			
394	II	キク科	ヒヨドリバナ			
395	II	キク科	ヤマアザミ			
396	II	キク科	ハコグサ			
397	II	ガマズミ科	ガマズミ			
398	II	スイカズラ科	ミヤマアザミ			
399	II	スイカズラ科	ヤマアザミ			
400	II	スイカズラ科	ホトヒヨウアザミ		県NT	
401	II	スイカズラ科	ニシキクサ			
402	II	スイカズラ科	クニギキョウ			
403	II	ウキ科	タラシ			
404	II	ウキ科	ヤマアザミ			
405	II	ウキ科	ヤマアザミ			
406	II	ウキ科	ハルギ			
合計				406種	184種	104種